

～～第7974回～～

塩見岳

～H28.7.21-23～

7月21日。梅雨も明けよいよ夏山シーズンに入り安倍川駅を10名で出発。新東名、東海環状道路、中央道と進み松川ICを出る。鳥倉林道駐車場には数台の車が止めてあった。身支度を整え登山届を提出しゲートの脇より林道歩きが始まる。水無橋まで来ると車の駐車場が遙か遠方右手の山肌に見える。40分程で鳥倉登山口に到着する。シーズン中は1日2便のバスの運行があり仮設トイレも設置されている。これより鳥倉登山ルート案内板を見て入山。カラマツ林の樹林帯の急登が続く。途中で2/10の分数表示の標識に出会う。三伏峠小屋までの距離の目安だそうだ。鞍部に出た所で昼食とし、その後、尾根の北側を登り緩やかな歩きやすい尾根道を進む。4/10を越えると沢や傾斜地に架けられた丸太橋を渡る。危険度は低いが雨の日は要注意。この先、三伏峠小屋まで十数箇所設置されていた。6/10を過ぎて、間もなくガレ場に「ほとけの清水」名の水場がある。苔むした倒木が多数ある森の中、丸太橋が架かる尾根の左側を巻いて登ると、塩川小屋からの分岐に出会う。9/10を過ぎ最後の急登をジグザグに登ると「小屋まで200歩」の表示板があり「日本一高い峠」に建つと言われる三伏峠小屋(2,585m)に到着する。登山口よりカラマツ林、シラビソ林、ブナ林等の鬱蒼とした樹林帯の歩行となり、展望は期待できなかったが小屋到着後、明日登る塩見岳が顔を出す。手続きを済ませ10人部屋の個室を8人で使用する。

7月22日。昨夜の激しい雨音で今日は塩見岳に登れるだろうかと心配したが、予報は回復するとの情報で雨具を着て霧雨の中、小屋を出る。ハイマツ帯の小ピーク三伏山を通過。展望はなし。三伏山からハイマツ帯の中の稜線を一旦鞍部に下り、登り返した所が本谷山(2,658m)。お花畑にはマルバタケブギ、タカネシオガマ、タカネマツムシソウ、イワベンケイ等、登山道周辺にはシャクナゲを多く見かける。時々塩見岳が樹木の間より影の様に姿を見せるがはっきりしない。ハイマツに囲まれた本谷山山頂に到着し、雨具を片付け朝食を摂る。山頂からの眺望は無い。塩見小屋に向かう途中、立ち枯れと倒木が目につく明るい場所に出ると、ガスにかかる塩見岳の雄姿が現われる。何度かのアップダウンを繰り返し、シラビソ林の暗い原生林を急登し、塩見新道分岐を過ぎて森林限界を越え、ハイマツ帯の岩尾根を登った先に塩見小屋(2,760m)がある。小休止後、ハイマツと砂礫の尾根を登り、ハイマツもまばらになると天狗岩に着く。いよいよ難関塩見岳の岩登りに取り付く所までに来た。眼前に迫る塩見岳西峰の迫力に圧倒される。緊張感も高まりストックを収めて、ガレ場の岩登り、浮石もあり不安定なルートに落石事故を起こさないよう岩稜をジグザグに慎重に登って行く。無事に塩見岳西峰(3,047m)に到着。山頂には二等三角点が設置されているが、最高点は西峰より5mほど標高の高い東峰の方だ。山頂からの期待した360度の展望は、残念ながら天候不順のため望めなかった。休息後、東峰(3,052m)に向かう。山頂は狭く、周りの山々の

眺望はやはり雲が多くて残念だった。西峰に戻り昼食とする。食後、西峰を落石、滑落に注意しリーダーの指示に従い慎重に下山する。復路は登って来た道に戻る。天狗岩、塩見小屋、本谷山、三伏峠小屋へと無事に戻り、入念にクールダウンを行い、ホットして小屋に入った途端に雨が降って来た。小屋の部屋も昨日と同じ。明日の天気はどうだろうと、思っていると夕食のカレーの匂いが漂ってきた。お疲れ様です。

記録：静岡西支部 増田

7月23日。烏帽子岳。一晩中雨が降り続き、天候の回復を祈りながら3:30起床。4:30早めの朝食を済ませ、3日目の目的地である烏帽子岳(2,726m)を目指しスタート。雨具を身につけての行動は少々不快感はあるが、防護柵に囲まれた花畑に咲いているマツムシソウの鮮やかな紫色が一瞬にして目を覚ましてくれる。昨日の疲れで足に重い感じは残るが、頂上の絶景を期待し雨にぬれた足元に気をつけながら暫く歩く。数は多くないもののヨツバシオガマや愛らしい黄色い花も咲いていた。空模様は曇りで、所々薄日が差してはまた日が隠れる。しかし、頂上に近づくほどガスは流れて消えていくように感じ、ちょっと期待できるのではと内心はウキウキ。全員の願いが通じたのか、西支部の晴れ男・晴れ女の登山隊が頂上に辿り着いたその瞬間360度の大パノラマが映し出された。ガスが一瞬にして消え、ワア一つと歓声が沸き、富士山をはじめ八ヶ岳の山々、槍ヶ岳、小河内岳など見る事が出来た。そして昨日登った塩見岳が目の前にドンと雄大な姿を現していた。それぞれ思いの風景を写真に撮り感動に浸っていたところ、再びガスが出始めた。ガスのかかった風景もまた幻想的・神秘的に見え、二重に感動した瞬間だった。この喜びを後にして下山の準備をしていると他の登山者が登って来たが、視界が悪かったようである。烏帽子岳を下り三伏峠小屋に戻る。雨も上がり、テントの片づけや雨具の片づけをして三伏峠小屋のお世話になったスタッフの方々に挨拶をし、見送って頂きながら出発。西支部は平日の行程であった為か混雑もなく満足できたが、下山途中、大勢の週末の登山者とすれ違い、山小屋の利用も大変なのではと他人事ながらちょっと心配をした。そのすれ違った人たちの中に小さい体で重い荷物を背負った歩荷さんがいたので西支部の一人が荷物の中身を尋ねたところ、「みなさんの笑顔と思い出」とのこと。この言葉に魅了され心が和み、疲れが消えていくような温かさを感じた。この温かさを感じながら休憩時間をとり腹ごしらえした。そして再び下山。所々にオダマキソウの白い花が咲いていた。途中、60歳代位の男性グループ6、7人が「葉緑素を持たない珍しい花」シャクジョウソウと力説しながら斜面でパチパチ写真を撮っていた。烏倉登山口に無事下山。そして駐車場までは40分程歩いた。西支部の2台の車を駐車した時はまだ駐車場には数台の車だったが、この日は満車で道路脇に駐車している人達もいた。車のナンバーも色々で他県ナンバーも多く、魅力的で人気がある山なのかなと感じた。靴の汚れを落とし温泉に向かって出発。松川IC近くにある温泉施設で昼食を摂って温泉につかり帰路に着く。三遠南信道の松川ICから高速道路に入り、新東名の岡崎SAで休憩をし、安倍川駅に17:30到着。

記録：静岡西支部 渡辺

・参加者：10名（静岡西9、静岡東1）

・天候：1日目晴れのち曇り 2日目雨のち曇り 3日目曇りのち晴れ

・地図：塩見岳・信濃大河原

・コースタイム 安倍川駅 500＝鳥倉林道駐車場 915-35…鳥倉登山口 1015-25…水場 1235  
…三伏峠小屋 1335-40…本谷山 530-45…塩見小屋 750-800…天狗岩 855…塩見岳西峰  
940…塩見岳東峰 945…西峰 955-1020…塩見小屋 1125-40…本谷山 1325…三伏峠小屋  
1445-500…烏帽子岳 635…三伏峠小屋 735-810…鳥倉登山口 1045…駐車場 1125＝松川 I  
C 1430＝安倍川駅 1730



塩見岳山頂直下の下り